

傀儡師の銅像前で人形芸を披露する「現代の傀儡師」たち。中央が勝部継弘さん



# 人形浄瑠璃文楽 ルーツは西宮



はんしん  
news

写真・文 山田哲也

53

ユネスコ世界無形遺産に登録された「文楽」。ルーツが西宮にあることはあまり知られていない。史実を今に伝える「傀儡師故跡」の碑が、NTT西宮局(西宮市産所町)南東の片隅に建っている。右隣に傀儡師の銅像もある。

今から約4百年前の慶長年間、産所町付近に、人形操りを生業とする傀儡師が40〜50人住んでおり、今在家町には常設座もあった。尼崎城主松平侯の姫君も駕籠に乗って見物に来たという。

彼らは西宮神社の雑役奉仕の

## 傀儡師故跡

かたわら、神社のお札を持って諸国を回り、人形芸を見せながら戎さんの神徳を広めた。その芸は、当時流行していた浄瑠璃と琉球から来た蛇味線を取り入れた独自のスタイルで、「夷舞」や「夷舞い」とも呼ばれた。全国的に知られるようになり、1614(慶長19)年に、宮中に招かれ演じたという記録も残っている。その後、夷舞は淡路島に伝わり人形浄瑠璃に発展した。さらに大阪で人形浄瑠璃文楽のルーツになったと言われている。

傀儡師は長らくこの地に住んでいたが、幕末には姿を消し、人形芸は途絶えてしまった。

傀儡師の功績を伝える活動が西宮で2年前から始まった。西宮中央商店街で染色工房を営む勝部継弘さん(51)が中心となって、西宮神社に残る文献などを調べて今様の「夷舞」を創作し、商店街のイベントなどで演じている。県の助成金を受け常設小屋の建設計画がある。

阪神西宮駅下車、西へ徒歩す。

